

受賞校概要(主な活動等)

【学校保健の部】

優 秀 校	長崎市立桜町^{さくらまち}小学校 校長 野中 正樹 学級数20 児童数461	「長期休業中の生活リズムの定着を図るための『桜っ子カード』の実施」 ・重点目標は、1「メディアとの付き合い方」、2「夜のはみがき」、3「体力の向上」の3点とした。 ・1に関しては、学校保健委員会主催で、松元リカバリークリニックの院長である松元志朗先生を講師に招き、親子で聞ける講演会を開催した。 ・2については、1学期に行う歯科検診や歯科衛生士専門学校の学生によるブラッシング指導等、様々な角度から意識向上に向けた取組を実施した。 ・また、新たな課題として上がった体力の向上に関しては、体育部と連携し「運動が好きな児童を増やす」をメインに、ランランカードの取組を行った。 ・生活リズムの乱れやすい冬休みは、「桜っ子カード」を活用し、重点目標3点を意識した生活を過ごすようにした。特に、学校三師の助言のもと、令和5年度は「親も一緒」に取り組めるようなカード形式にした。
	吉崎市立那賀^{な か}小学校 校長 鬼塚 恭壽 学級数9 児童数79	「基本的生活習慣の定着に向けた『元気もりもりカレンダー』の実施」 ・令和5年度第2回には、元気アップファミリーフィットの開催（親子体力向上実践セミナー）。人数制限のため、3年生以上の親子で実施した。また、メディアについての問題点が指摘されていたため、令和6年度第2回は、講演「目標達成のために必要な生活習慣」主にメディアに関する内容について、全保護者・地域を対象に実施した。 ・テーマは「基本的生活習慣の定着に取り組み、たくましい子どもを育てよう」とし、元気もりもりカレンダー[9時9時ルール（メディア時間）、生活リズム、歯・口の健康]に取り組み、具体的なめあてを各家庭で設定していくようにした。
	雲仙市立神代^{こうじろ}小学校 校長 中田 稔昭 学級数10 児童数140	「基本的生活習慣の定着と改善を目指して～メディアコントロールについて家庭・地域での実践～」 ・学校保健委員会の目標を「基本的生活習慣の定着と改善を目指して～メディアとの上手な付き合い方～」とし、育友会地区保健委員を中心として、学校や家庭、地域でのメディアコントロールについて考え、各地区で実践した。 ・取組内容としては「早寝・早起き・朝ごはん・ノーメディアのチェック活動」「理学療法士によるメディアと姿勢の講話」「メディ

		アといじめについての学習会」「地区のメディアルール設定」「アウトメディアによる時間の使い方への取組」等、メディアコントロールのための多岐に渡る実践が行われた。 ・第3回学校保健委員会では、睡眠健康指導士を講師に招き、「子どもの眠り」について講演会を実施した。より良い睡眠とメディアの関係についても話をしていただき、子どもたちの成長や健康な生活への保護者の意識を高めることができた。
	いしだ 吉岐市立石田中学校 校長 横山 時子 学級数8 生徒数125	「基本的生活習慣の見直しと改善を目的としたメディアコントロールビンゴの実施」 ・中学校区内の小学校2校と連携し、基本的生活習慣の確立を目指すとともに、家庭でのメディアコントロールを推進する取組を実施した。メディアの使用に関することや睡眠、食事、運動、家庭学習、あいさつなど基本的生活習慣の見直しと改善を図ることを目的として10月と2月に「メディアコントロールビンゴ」を1週間実施した。実施後は、項目ごとに達成度を集計し、10月と2月の変化も比較した。集計結果と児童生徒、保護者の感想をまとめ、「地域学校保健委員会だより」として全家庭に配布した。 ・また、本校独自の取り組みとして1学期にはPTA主催の「メディア講演会」、12月には学校保健委員会として学校医を講師として「思春期から予防する生活習慣病」と題した講演会を実施し、生徒・保護者・地域関係者が参加した。
優良校	えいか 吉岐市立盈科小学校 校長 長岡 正典 学級数14 児童数240	「家庭におけるメディアルールの定着に向けたチャレンジカードの実施」 ・生活習慣の確立に関する取組の内容と方法について、1回目の学校保健委員会で話し合い、家庭との間で共通理解を図った。また、学校保健委員会に出席していない教職員と保護者については、職員会議や「学校保健委員会だより」、学級懇談会などで周知した。 ・毎月10日に行っていたチャレンジカードの取組を、年に3回の強化週間として実施した。 ・児童への意識付けのため、児童が目的意識をもって取り組むことができるよう、事前に保健指導を行った。家庭への意識付けのため、強化週間前には積極的な取組を促す内容を、強化週間後には取組状況および成果と課題等を記載した「学校保健委員会だより」を発行した。 ・年度末の学校保健委員会で、年間の反省及び次年度に向けての話し合いを行った。

	長崎市立^{もぎ}茂木中学校 校長 野田 希世美 学級数3 生徒数67	「ノーマメディアウィークの実施による生活リズムの定着に向けた取組」 ・学校保健委員会の年間テーマを「メディアと上手につき合おう」と設定し、生活リズムチェックを年間2回、ノーマメディアウィークと称する期間を年間2回設定して、メディアの時間を減らそうという試みを実施している。 ・ノーマメディアウィークは、近隣の小学校と連携し、中学校のテスト期間中に設定している。これは家庭とも連携を図るのが目的である。また、ファミリープログラムでは子どものメディアとの付き合い方について、保護者・教員がメディア安全指導員からアドバイスを受け、地域をあげて、学校と家庭と連携をして子どもたちの健やかな成長を目指している。
	平戸市立^{ちゅうぶ}中部中学校 校長 北野 憲 学級数4 生徒数65	「自分の口の中の状態を知り、自分の課題を認識させる『お口のカルテ』の活用」 ・歯肉の状態と生活習慣の問題点を把握させることを目的に、鏡を見てセルフチェックを行いながら、一人1台のタブレット端末を使用してレーダーチャートを作成した。 ・歯と口の健康がなぜ大切なのか、将来にどのように影響するのかを理解させ、歯と口の健康を守る動機づけを目的に、各学級で保健指導を進めた。歯肉炎発病時期の低年齢化を考慮し、主に歯肉炎・歯周病について指導を行った。 ・歯・口の健康診断の結果、歯肉炎の生徒が一番多く、かつ、むし歯の未処置生徒が一番多い学年を対象に個別指導を行った。 ・歯・口の健康診断の後、学校歯科医と養護教諭が情報共有する時間をつくっている。個別の指導が必要な生徒や、健康診断の結果を詳しく教えていただき、個に応じたブラッシングの方法も学校歯科医から指導を受けている。
努 力 校	新上五島町立^{ありかわ}有川小学 校 校長 松野 勲 学級数9 児童数136	「口コモ予防を中心とした運動不足解消のための組織活動」 ・理学療法士による運動器検診を行い、医療と教育をつなげた。 ・専門職(小児科医・理学療法士)から体育でのストレッチ指導や姿勢指導を児童に直接行った。 ・学校保健委員会に医師・理学療法士も参加し、医学的なアドバイスや資料の提供等、保護者への啓発活動を行った。 ・町内保健主事・養護教諭部会を用いて専門職との学習会を行い、町内児童の現代的課題について共通理解し、資料等データを町内の小学校で共有して活用した。

【学校安全の部】

優秀校	吉岐市立^{わたら}渡良小学校 校長 入江 保廣 学級数6 児童数57	「児童自身が安全について意識を高める子ども安全点検」 ・交通少年団による見守り活動と全校児童による子ども安全点検の実施をととした安全意識の向上を図る取組を実施している。 ・保護者全員を対象とした、地域危険個所の確認と危険個所の周知を実施している。 ・教職員は子ども安全点検と連動して、毎月安全の日を設定し、施設の安全点検を実施している。 ・年に4回の避難訓練を実施し、その都度、各専門家を招聘することで生徒の安全と職員の意識向上につながる訓練を行っている。
優秀校	南島原市立^{くちのつ}口之津中学校 校長 大嶋 博之 学級数5 生徒数73	「東日本大震災の教訓を踏まえた危機管理の推進」 ・管理職自ら、東日本大震災ボランティアとして活動することで得られた、見識を活かした災害時対応の指導を行っている。また、中高連携を図ることで、生徒主体となった防災教育を推進している。 ・学校運営協議会(CS)を活用することで、地域と連携した学校安全教育を進めている。 ・令和6年度長崎県健康教育研究協議大会にて、学校事故防止対策 交通・災害安全対策分科会で事例発表を行い、県下全域へ取組を波及させた。
優良校	長崎市立^{さくらまち}桜町小学校 校長 野中 正樹 学級数20 児童数461	「家庭や地域と連携し、児童が安心して生活できる環境づくり」 ・登下校に関しては、PTAの朝の見守り活動、地区ごとの児童リーダーを中心に毎日の集団下校を実施している。 ・地域企業と連携し、学期末に下校時の見守り活動を実施している。 ・避難訓練に関しては、様々な訓練を地域住民や保護者、消防署と連携して実施している。

【学校給食の部】

優 秀 賞	佐世保市立^{はいき}早岐小学校 校長 尼崎 悦朗 学級数26 生徒数611	「ICTを活用した給食指導及び食に関する指導を実践している学校」 ・ICTを活用した給食指導及び食に関する授業を実施している。 ・授業や給食指導を行った後は食育だよりに掲載し、QRコードでホームページの記事を見ることができるよう工夫し、保護者への啓発を行っている。 ・食育だよりに保護者の意見を書き込めるフォームのQRコードを掲載し、普段の食事の悩みや気になることを収集している。保護者からいただいた意見を踏まえて、家庭での実践に役立つ内容を食育だよりに掲載することで紙面が充実するように工夫している。
優 良 賞	五島市立^{みいらく}三井楽中学校 校長 森 樹実人 学級数3 生徒数34	「学校給食をとおして生きる力をつけるための食育を実践している学校」 ・年に1回弁当の日を設定し、生徒自身が昼食のお弁当を作る取組を実施している。 ・毎月全校給食を実施している。また、年に2回地域の方にも参加していただき、交流をしている。 ・栄養バランスと地域食材を生かした給食献立を3年生の生徒が考え、全校生徒、教職員、保護者、地域の方々が文化祭時に投票し、最も票数が多かった献立を給食として提供するG究グルメコンテストを実施している。

